



題字 原田 親

No. 566

2009/2/25

日中友好協会  
岡山支部  
〒703-8256  
岡山市東3-8-30-514  
TEL.(086)272-3010  
郵便振替口座  
01250-0-3835  
http://rizhong.web.  
infoseek.co.jp/

# 日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒103-0945 東京都千代田区  
西神田2-1-1 東方学生会館404号

日中友好協会岡山支部ホームページ  
http://rizhong.web.infoseek.co.jp  
メールアドレス  
rizhong86@hotmail.co.jp



## 中国語講座訪問記

真田紀子



2月20日の金曜日、旭公民館で開講されている中国語講座初級1の取材に行つて来ました。郭志華老師の講座です。

私が到着した7時半頃は、片寄さんの作文発表が行われているときでした。日常の出来事を中国語で発表し、それを老師がホワイトボードに書いていました。日本語で出来事を話しながら、中国語に訳していくのがつまると、老師がヒントをくれます。



実は私も数年前まで中国語を勉強していました。そのときのことを思い出しながら、楽しく一緒に学ばせていただきました。一つ勉強したことがあります。日本語で「中古車」という言葉を中国語では「半新车」とい



郭志華老師

とを始めてしりました。その後、老師が朗読する中国語を生徒が書き取ります。題材は「中国の結婚事情について」の文章を老師がゆっくり発音してくれます。それを3回ほどくり返して、生徒のノートを老師が見て回ります。聞き取りが出来なかった部分は、老師が固有名詞でこういう意味ですよとヒントをくれます。その後、その文章の意味を訳していきます。その日の出席者は3名でしたが、皆さんで協力して訳していきます。その大体的意味がとも面白かったので書いてみます。 “中国人はとても結婚を重視しています。結婚は一生の大事

## 2009年平和フェスタ

### 倉敷医療生協平和活動委員会



平和フェスタで講演する きくちゆみさん

2月11日(水)2009年平和フェスタが倉敷医療生協会館で開催されました。倉敷医療生協平和活動委員会主催の平和フェスタは今年で10回目を迎えました。戦前の「紀元節」を復活させた建国記念の日」は憲法の主権在民の原則に反するもので、平和憲法を改悪する動きと結びついていきます。健康をつくる、平和をつくる」活動をすすめてきた医療生協はその役割を自覚し、再び戦争する国にさせないため、2月11日という日にこだわって毎年開催してきました。

今回は、翻訳家で環境・平和の活動をライフワークとし、千葉県鴨川市で自ら田を耕し、米をつくり、野菜をつくり、地産地消を実践している、きくちゆみさんの記念講演がありました。 9・11のニューヨーク

で、しかも嬉しい事です。だから、結婚をする日には、爆竹を鳴らし、また、赤い色の二つの「囍」の文字を貼ります。 だいたい自由恋愛です。恋愛する条件は、時代の変化に従って絶えず変わってきました。現在の女性の理想の男性像は、高学歴で高収入、背が高く仕事能力が高い人。男性の条件は美人でやさしい女性を妻にしたい。

日本の結婚事情とまったく同じですね、思わず笑ってしまいました。 その後、生徒が聞き取った内容を、ホワイトボードに書き写していきます。 “中国人非常重视结婚，把结婚叫终身大事也认为结婚是喜事，所以结婚也叫《办喜事》结婚那一天要放鞭炮，还要贴红色的《双喜字》。” 今日はいこまででした。

クの国際貿易センタービル的事件を 同時多発テロ」とし、アフガンスタン攻撃を画策したブッシュ米大統領に対し、「NO!」と心の中で叫び、ブッシュ宛に戦争反対の手紙を送った、きくちさん。短期間に1千万のカンパを集め、ニューヨークタイムスなどに、戦争反対の意見広告」を掲載しました。アフガンスタン攻撃は止められなかったけれど、グローバルピースキャンペーンを立ち上げ、平和活動に精力的に取り組んでいます。実際に語った、きくちさんのわかりやすく、はげしいいい講演は参加者の心をうちました。

ました。「など感想が寄せられました。象列車を歌う会」フレンズの、すばらしい歌声は参加者の心を和ませ、元気をもらった「心が洗われた」「一緒に歌ってとても楽しかった」などの感想が寄せられました。若者企画は初めての取り組みでした。若者たちの頑張る姿はとも好感がもてました。



きくちゆみさんの講演を聴く会場いっぱいの聴衆

午前10時からは倉敷医療生協各支部のバザーがあり、会場は大いに盛り上がりました。 また3階ホールでアニメ「蒼い記憶」が上映されました。「蒼い記憶」を観て、私たちの知らない部分を知りました。「もつと皆さんに観てもらいたい、平和の大切さを自覚してほしい。」若い方にも観ていただきたいと思いました。「子供さんに戦争の恐ろしさを伝えたい。」「蒼い記憶」を観て、先生の言葉で、学生たちの心を洗脳し、報道を規制し戦争へ駆り出したことは認められない。「もつと現代の若者に知らせたい、と思った。」とても感動的でした。「泣き

きくちさんとは、数年前、ピースウォークと一緒に岡山市内を歩きました。またグループできくちさんを招き、手作り講演会も行いました。広島の水爆禁止世界大会会場で再会するなど、個人的にもつながってきた私たちの数年ぶりの再会でした。

朝倉彰子

# 内山完造さんについて

日中友好協会倉敷支部理事長 栗本泰治

日中友好協会の初代理事長であった内山完造さんが亡くなられて今年50年に当たります。生前の内山さんを知る人も数少なくなってきました。

私は1957(昭・32)年、内山さんが亡くなられる2年ほど前一度お会いしたことがありません。日中友好・講演の夕べが倉敷市の水島小学校講堂で開かれた時でした。

その日は200人近くの聴衆が詰めかけました。1949年に新中国が誕生し、1955年には岡山第六高等学校(現、岡山大学)で学んだ中国文化人郭沫若さんが岡山に来られました。そして、後樂園に一つがいの丹頂鶴を送られるなど、日中友好の機運が大いに盛り上がった

ころでした。水島には、中国からの引き揚げ者もたくさん住んでいました。中国への関心が高かったのです。内山さんは、黒っぽい作業姿で教壇に立たれました。飾り気のない好々爺然とした出で立ちで方言を交えながら、わかりやすく日中友好の必要を語られました。

講演の自身は詳しく覚えていませんが、日本と中国はこれほど近く隣り合っているのに、日本人は中国のことをよく知らない。もともと中国を知らなければならぬ。そうしないと日本は世界に立ち遅れてしまう。一日も早く講和条約を結ばなければならぬ。大体そんな話だったように記憶しています。今でもその話は生きています。

## 日中友好協会岡山支部 理事会だより

2月12日の理事会は8人の参加。

①情勢—岡山市立平和資料館をつくること、市長3代にわたる念願の署名運動。

- ・ソマリアに自衛隊を出すことに反対する署名。
- ・明治の初めから「ヨーロッパに追いつけ追いこせ」との140年間に、日本はどこまで追い付いたのか、なにが遅れているのか。

②組織—第58回全国大会(6/13・14東京)にむけて会員・読者の仲間をふやそう。

- ・岡山支部総会は6月21日の予定。西日本活動者会議(福岡)に稲葉理事が出席予定。
- ・神韻芸術団は、「法輪功」普及の団体で注意。「法輪功」については莫邦富『北京有事』(1999新潮社)がよい参考書。

③財政—会費等の請求書30通郵送。今回は日中友好協会の目的(規約第2条)を再確認し、「日本政府の行為によって中国への侵略戦争が起こされた歴史を教訓として……」運動することを心がけましょう。

- ・09年カレンダー500部完売、四川地震カンパ、支部財政おおいに助かる。ご協力ありがとうございました。
- ・中国語講座08年・4月～9月の会計報告。上級クラスの運営、全体の受講料値上げも考える→3月理事会の課題とする。

## 帰国者との交流・話題

### 旭竜地区中国帰国者地域交流懇談会に参加 中国帰国者とのほんとうの交流を求めて



手を頭に乗せているのが中国帰国者の後藤さん、その左がお母さんです。

日中友好協会岡山支部は、2月15日(日)に、22回目になった、岡山市と旭竜地区民生委員児童委員協議会が主催の中国帰国者地域交流懇談会から依頼があり参加しました。岡山市民生委員の泉さんを中心に、岡山市からは福祉援護課、福祉事務所、教育委員会、旭竜小、高島中の先生方、

支援相談委員のみなさん、日中友好協会からは、小林事務局長、成田さん、日本語教室講師の井上さん、それに稲葉が出席しました。

高島地域にお住まいの中国残留孤児の方、帰国者の方を中心にコミュニティーハウスの集会所いっぱいに盛り上がりました。

朝早くから、岡山名物のばら寿司や水餃子、肉まんを手作りで用意して、これからの支援のネットワークをと、それぞれの立場からの発言が相次ぎました。旭竜学区では23年前から受け入れていて、高齢化になっ

稲葉泰子

### 悠々会 (熟年女性の会)

#### 高杉夫妻の指導で水餃子

2月19日、成東台東集會場で悠々会(熟年女性の会)代表日下美恵子(主催の水餃子づくりの会)があり20人が参加しました。

最初に仲介役の日中友好協会岡山支部の私が、高杉夫妻を紹介(中国残留日本人孤児で、孤児訴訟の原告団長等)しました。

今回は、高杉さんが皮づくりをおくさんが具の作り方と分担しながら進めました。作業の



中央の男性が高杉さんその左がおくさん



左から美味しそうに肉まんじゅうを食べる成田さん、稲葉さん

途中でおくさんが高杉さんと呼んだとき、「ハイ！」と非常に高い声で素直に返事がかえってきて、一同大笑いとなりました。その後は、和気あいあいと楽しく餃子づくりが進み、12時ごろに約200個の水餃子ができました。湯気の上がる餃子を食べながら約40分間、高杉夫妻の中国や日本での生活について交流しました。帰りの車の中で高杉さんが今日は、ほんとに楽しい会であったと喜んでくれました。ささやかな日中交流の手助けになりました。

小林軍治

次回の新聞発送作業は3月2日(月)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

宇野 小林 和  
小竹 内 竹内 袈